

(別紙) 応募用紙「土木広報大賞 2021」

団体名：国づくり狂言プロジェクト実行委員会/やまかわさとみ事務所			
応募部門 (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> イベント部門	<input type="checkbox"/> 映像・メディア部門	<input type="checkbox"/> 広報ツール・アイテム部門
	<input checked="" type="checkbox"/> 教育・教材部門	<input type="checkbox"/> 商業広告部門	<input checked="" type="checkbox"/> 企画部門
土木広報活動または作品名：清正公さん国づくり狂言 肥後・尾張			
広報活動または作品の概要			
<p>本プロジェクトは、熊本震災からの復興と未来に引き継ぐ強いまちづくりを応援し、土木技術者としての業績を数多く残した加藤清正公の肥後や尾張での国づくり（インフラ整備）に新たな光を当てて、地域の誇りを醸成することを目的とした3か年プロジェクトです。プロ狂言師と熊本・愛知の子どもたちが共演する新作狂言、トークセッション、各種展示を通じて、清正公の信念である「後の世のため」「国づくりは人づくり」を広く発信しました。</p>			
(1) 国づくり狂言プロジェクトの企画			
○シビックプライドの掘り起こし			
<p>加藤清正公は熊本では「清正公さん」と呼ばれ、現代も地域に深く根付いた存在です。また名古屋市中村区は「清正公生誕の地」、愛知県津島市は「清正公が幼少期を過ごした地」として、それぞれ地域を代表する戦国武将として尊敬されています。本プロジェクトでは「土木」により熊本の社会基盤を築いた加藤清正公に着目して各地域の誇り（シビックプライド）を掘り起こし、これをプロジェクトのテーマとしました。</p>			
○狂言と土木のコラボレーション			
<p>「狂言」は戦国武将も愛した古典芸能です。一方で戦国武将が国づくりにおいて最も苦心したのは治水、灌漑等の土木事業です。土木も狂言と同じく地域の風土と歴史や伝統（経験）という型を大切にしつつ、イマジネーションを働かせて新しいものを創造していくことが重要です。古くて新しい「狂言と土木」のコラボレーションを主軸とする当プロジェクトは、話題性が高く、多くのメディアに取り上げられました。</p>			
○土木の魅力発信			
<p>多くの人に土木の魅力を発信し、魅力に気付いてもらうために以下を企画し実施しました。</p>			
<p>① 新作狂言に清正公の功績（清正公の土木遺産の紹介とその魅力）を取り入れる。</p>			
<p>② 清正公の土木遺産、熊本の国づくり、震災復興における土木の役割をパネル、動画により紹介</p>			
<p>③ 各界の専門家によるトークセッションを企画し、多くの人に「清正公」と「土木」の魅力の一つでも多く知ってもらう。</p>			
(2) 3か年プロジェクトにおける活動実績			
○2019年10月13日 狂言で楽しもう！清正公さんの尾張での活躍(熊本)			
会場：熊本城特設ステージ、三の丸広場			
<p>① 清正公さん国づくりブース：牧野氏（郷土史研究者）による強い城下町の仕組みに関する講話、まちづくり、震災復興事業のパネル紹介等（10/12～14の3日間）</p>			
<p>② 清正公さん国づくり狂言の公演 演目：「轍」、「冥加さらえ」作：やまかわさとみ 出演：能楽師11名、愛知の小学生8名、【観覧者：約400名】</p>			
○2020年12月5日 みんなで知ろまい！加藤清正公の肥後・尾張での国づくり(名古屋)			
会場：名古屋市中村文化小劇場、ナビゲーター：秀島栄三（名古屋工業大学教授）			
<p>① 名古屋市長・中村区長 下山浩司氏による導入談義</p>			
<p>② 狂言演目 なごや妖怪狂言「冥加さらえ」作：やまかわさとみ 出演 能楽師：5名、愛知の小学生6名、【観覧者160名】(コロナ対策定員50%)</p>			
<p>③ トークセッション「驚きの偉業を知る」 田中尚人（熊本大学准教授）、島谷幸宏（九州大学大学院教授）、網田龍生（熊本市熊本城総合事務所長）、小西恒典（名古屋市秀吉清正記念館学芸員）</p>			
<p>④ ロビー展示：清正公の時代の築城、治水、農業用水路の整備や干拓などのインフラ整備を紹介するとともに、震災復興事業や建設コンサルタントの役割を動画、パネルにより紹介</p>			



○2020年12月6日 活躍の地「熊本」×出身地「津島市」の交流イベント(津島-熊本)

会場：本妙寺（熊本市）・妙延寺（愛知県津島市）【参加者：87人】

・清正公の菩提寺：本妙寺と、清正公が幼少期に通った寺子屋：妙延寺を会場として、熊本市長・熊本市民と津島市長・教育長・津島市民らがりモート交流を実施。

津島妙延寺⇒熊本本妙寺の発信：妙延寺と熊本本妙寺、津島と清正公のつながりを紹介、狂言を演じた子供たちから本番や稽古の話インタビュー

熊本本妙寺⇒津島妙延寺の発信：本妙寺と津島妙延寺のつながり、熊本城や城下町探検ツアーについて子供たちから紹介、「熊本城9つのつながり」について紹介



○2021年5月22・23日 奇跡の軌跡!!未来へ紡ぐ清正公さんの国づくり(熊本)

会場：本妙寺（熊本市 清正公菩提寺）、熊本城内特設ステージ

① トークセッション「土木×狂言とかたる清正公さんの国づくり」

田中尚人（熊本大学准教授）、やまかわさとみ

② 加藤清正公国づくり狂言「熊本三獣士」作：やまかわさとみ

出演：能楽師8人、熊本市内小学生4人

【観覧者：800人】



(3) 企画運営・実行委員会の構成メンバー

市民の活動、教育委員会・自治体の後援、土木関係者(大学、企業)と能楽の連携

様々な関係者の連携により、3か年のプロジェクトを実現してきました。詳細はHPに掲載しています。

・実行委員会：委員長・愛知委員（3名）、熊本委員（3名）、土木研究者委員（3名）、土木企業委員（(株)建設技術研究所有志8名）、・共催：木曾三川子ども狂言クラブ・後援・協力：名古屋市、熊本市、津島市、各市教育委員会、公益社団法人土木学会中部支部 他

・土木×狂言 伝統芸能・狂言による土木・国づくりの表現：土木狂言作家やまかわさとみが当プロジェクトの活動を通じて新作狂言「熊本三獣士」を創作。2021年5月に初演に至った。1年目、2年目にも土木（まちづくり・川づくり）をテーマとする新作狂言（作：やまかわさとみ）を、子ども達が稽古をしながら、地域の歴史と土木の素晴らしさ等を学び、3年間で観覧者約1500人が感動を共有しました。

広報活動または作品の効果

メディア発表、子方募集・稽古のメディア取材（新聞・TV・ラジオ）、本番の動画配信・HPなど、一連の広報活動（有識者等による土木資産のパネル展示）

●清正公業績の振り返りを通じた地域づくりや土木遺産への関心向上

●狂言を演じる子ども達と観覧者のシビックプライドの醸成

●未だ復興途中にも関わらず応援意識が薄れてきている被災地の応援、防災意識の向上

狂言を演じた子ども達の声

・貴重な体験で清正公さんの素晴らしさがよくわかった。楽しかった。またぜひ参加したい。

名古屋 中村区の皆さんからの声

・今後も地元の誇りと文化歴史を広く紹介していただける活動を続けていってください。

・清正公の武将でありながら、技術者でもあったことを知りました。狂言も初めてでしたが楽しめました。

熊本城 城下町の皆さんからの声

・「熊本三獣士」の再演や小学校での狂言継承を期待したい。

・熊本市教育委員会からエディケーション全国大会での実施例として紹介させてもらいたい。

その他

ホームページ・SNSによる情報発信

・当プロジェクトのホームページを立ち上げ子ども達のオーディション、お稽古の様子から、土木遺産の紹介を、誰にでも見てもらえるものとなりました。

・コロナウィルス感染防止対策を講じ、2020年、2021年の企画では参加定員を減らして開催するとともに、イベントに来れない方に向けて動画や写真等の情報を発信し、より多くの方へ届く工夫を行いました。

新聞・ラジオ等のメディア取材

・メディア取材を受けることで、土木×狂言の実施、清正公の国づくりから現在の国づくりまでを、一般に興味を持ってもらう機会を創出することができました。

中日新聞、読売新聞、熊本日日新聞、東海ラジオ、中央エフエム「ドボクのラジオ」、RKK熊本放送 他